

平成19年度 法科大学院入学者選抜試験問題

刑 事 法

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙の中を見てはいけません。
2. 試験時間は、刑法、刑事訴訟法の2科目で80分です。
3. 試験中に問題用紙の印刷不鮮明や解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
4. 解答にあたっては、必ず黒か青のペン（鉛筆は不可）またはボールペンを使用してください。
5. 解答用紙に記入するときには、下記の点に注意してください。
 - (1) 受験番号・氏名を所定欄に記入してください。
 - (2) 刑法の解答用紙は、2枚あります。2枚目の解答用紙にも受験番号・氏名を記入し、ホチキスは、はずさないで使用してください。
 - (3) 訂正する場合は、＝線で消すなどして、分かりやすく訂正してください。
 - (4) 解答用紙は、折り曲げたり汚したりしないでください。
6. 問題用紙の余白等は適宜利用してかまいません。
7. 試験終了後、問題用紙は持ち帰ってください。

【刑法】

A男は、X女と同棲していたが、暴力をふるったりするため、別れ話を切り出され、別れたくないために、婚姻届を偽造し、勝手に市役所に届けを出した。X女とその件で争い、同女が台所にあった文化包丁を持ち出しかかってきたため、いったん包丁を取り上げ、とりおさえたが、同女が出て行こうとしたため、別れるくらいなら、X女を殺して自分も死のうと思いつめ、出て行こうとした同女の背後から背中をその包丁で刺し、重傷を負わせた。しかし、A男は、X女の出血に驚き、苦痛の表情を見かねて、救急車を呼んで、病院に搬送したため、同女は一命をとりとめた。また、入院中にX女のハンドバックから、同女のキャッシュカードを取り出し、銀行のATMから勝手に10万円を下ろし、費消した。

A男の罪責について、論じなさい。

〔配点80点〕

【刑事訴訟法】

1. 次の場合に、検察官は、甲を住居侵入罪および窃盗罪で勾留請求することができるか。〔配点20点〕

甲は、路上においてAに対し暴行を加えた件で警察官に現行犯逮捕された。警察での取調べの際、甲が所持していた腕時計について質問されたことが契機となって、甲は、B宅に侵入し、B所有に係る前記腕時計を現金25万円とともに窃取した旨供述するに至った。上記各事件の送致を受けた検察官は、暴行罪については勾留の必要性はないが、住居侵入罪と窃盗罪については勾留の必要があると判断した。

2. 次の場合に、裁判所は、有罪を言い渡すことができるか。〔配点各10点〕

(1) 殺人被告事件において、被告人が手を下したことは確かだが、殺人であるか傷害致死であるか不明なとき。

(2) 窃盗被告事件において、窃盗か盗品收受か不明であるが、そのいずれかであることが確かなとき。